

第4回霧島市立養護老人ホームあり方検討委員会 会議録

平成24年3月19日(月) 13:30～

国分シビックセンター 公民館 中会議室

出席委員

松枝 洋一郎、福原 平、津之地 良、堀之内 康弘、後藤 博孝、福永 義郎、町田 恵子、黒岩 尚文

事務局

宮本保健福祉部長、花堂保健福祉政策課長、新窪政策グループ長、秋丸主任主事

< 提言について >

委員 基本は民営化であるという提言でよいと思う。

委員 民営化を進めていくということにあわせ、定員を減らしていくということで問題ない。

< 提言の理由 >

委員 「需要があって、施設があるというのではなく、施設があるから需要が生まれる」というのは事実なのか。あと、「人間の尊厳が配慮されていない根底には」というところが、市立であれば職員の賃金が高いからという、市の職員はぬるま湯につかっているからというような表現だが、サービス向上を職員が怠っているかという、そうでもないのではないか。

委員 施設があるから需要が生まれるのは地域性的話。横川に施設があるから、横川の人が多いという話。

委員 福山であれば、輝北とか曾於とかそちらに行っているはず。どうしても家で見れない人がそういうところに行くわけで、「あっけ施設があっで、あっけいっきゃん」ということではないと思う。

事務局 旧福山の方で措置をしている方、確か市内の園に1人、市外の園に2人ほどの3人だったと思う。横川と福山の人口の規模から考えたときに、横川の措置数と福山の措置数の差は施設のある無しではないか。

委員 家庭の事情があるけど、日常生活について、手助けはもらえない方が入るわけで、本当にそういう人が養護老人ホームでないと対応できないかという話。

委員 表現として、入所者と家族への配慮が足りないのでは。

委員 施設の必要性があるとするのであれば、役割を終えつつあるというのでは矛盾しないか。減少傾向にあるという表現でもいいのか。

委員 市がどう運営していくかがサービスの質につながるわけで、個人の給与の問題ではないのでは。

委員 民間の方がサービスがいいという表現でいいのでは。競争もあるし。

委員 養護老人ホームは措置費も決まっているので、競争にはならない。ただ、餅は餅屋の発想で介護のことは行政ではなく、福祉の専門家がやるほうがいい。

<付帯意見について>

委員 住み慣れた地域へ返すという表現はどうか。

委員 本人の望む生活ができるようという表現では。